

利用者一人一人が
いきいきとしたデイサービスを目指して
ーデイサービスセンターみをつくしでの
作業療法士の取り組みからー

栗田洋平 塚田えり子
浜松十字の園デイサービスセンターみをつくし

施設紹介

- **浜松十字の園**
1961年 開園
- 日本で
一番古い老人ホーム
- 老人福祉法における
人員配置の基準モデル



施設紹介

- **デイサービスセンターみをつくし**
- 定員22名
- 浜松十字の園（特別養護老人ホーム）、
十字の園**ショートステイ**に併設されている。
- 平成25年より、機能訓練指導員として
作業療法士（OT）が2名配属になっている。

作業療法とは

- 『**作業を通して**
健康と幸福な生活の推進に関わる職業』
(世界作業療法士連盟の作業療法の定義より)



人は作業をすることで元気になれる！

当デイサービスの目標

- 『**利用者一人一人が**
いきいきとしたデイサービス』
- 利用者一人一人の人生の歴史や価値観を踏まえ、
作業への参加を促し、
生活の質（QOL）の向上に努めている。

報告の目的

- 作業療法士が関わることで
生き生きとした生活を送る事が
出来るようになった事例を紹介し、
作業療法士がデイサービスで
出来ることを明確にする。

事例紹介



Aさん

- 80代男性
- 長い間農家を営んでいた
- 息子夫婦、孫と4人暮らし
- X-3年 両股関節置換術
認知症 (MMS E 13点)
- 現在、農業は行っていない
- ADLは入浴・更衣に見守り～軽介助
- X年1月 **デイサービス**を利用開始

事例紹介

- X年6月



家族

- **介護負担感の軽減**を目的に
同一法人内の**ショートステイ**を利用開始。

泊まりたくない。
家に帰りたい。



Aさん

作業療法評価

- X年9月 面接



Aさん

大根を育てる。
百姓の物を買いに行く。
百姓の仲間と旅行に行く。
農業をしてないからお金がない。

- 『農業』, 『買い物』, 『旅行』が挙がる。
- すべての語りに**農業**との繋がりがみられる。

介入計画

現在のAさん

- 農業を行っていない
- 農業と切り離された生活
- 経済的不安

ショートステイの
利用に拒否的

介入方針

- ショートステイ利用中
にも**農業を行う時間**
- **農業中心の生活の再構築**

安定した
ショートステイ利用

家族の
介護負担感軽減

介入経過 X年10月

デイサービス

連携

ショートステイ

利用



Aさん

利用

- 家族・職員にAさんが農業がやりたいが出来ず、
不安に思っている事など代弁し、
畑を中心としたスケジュールを考案した。

介入経過 X年10月

- ショートステイ利用時には、
ショートステイの職員に
一緒に畑に出てもらえるよう調整をした。
- 畑に出た際には、
Aさんに**教えてもらう**という立場で関わり、
Aさんが施設での農業を
役割として意識出来るように支援した。

介入経過 X年11月

- ショートステイ利用中,

今日は泊まるのは止めにする。
家に帰る。



Aさん



OT

明日は自分が休みだから畑が心配。
Aさんが水やりをしてくれると安心。

- 水やりをするために
納得して**ショートステイ**を利用。

介入経過 X年11月

肥料は
買って来たか？



Aさん

今日も
水やりするか？

- 施設での畑仕事を役割として意識している。
- Aさんと農業を結び付けることで
生活の再構築をすることが出来た！

施設生活への**適応!**

介入経過 X年11月

ショートでも
畑に出るようだ。
デイの畑の話を
よくする。



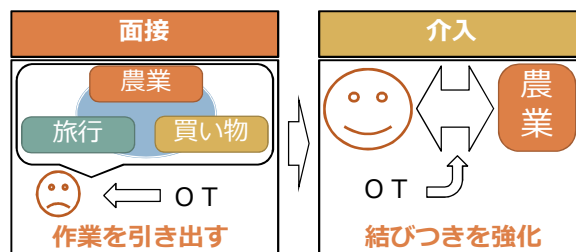
家族

畑に使命感を
覚えている。
楽しそうで
何より。

- Aさんの変化を肯定的に受け入れている。

介護負担感が軽減した！

まとめ



安定した、いきいきとした
サービス利用につながった。

まとめ

- 作業療法士の出来ること

『利用者1人1人の『作業』を引き出し、
結びつくことが出来るよう支援すること。』

- Aさんは施設生活で農業が可能になった。
- デイサービスは在宅支援である為、
今後は**ご自宅での生活**が
豊かになるような支援をしていきたい。